

授業改善推進フランチ

	1年		2年		3年	
	授業改善の方向	具体的な方策	授業改善の方向	具体的な方策	授業改善の方向	具体的な方策
		(重点項目)		(重点項目)		(重点項目)
国語	・話し方、聞き方に気を付けさせる。話し方では、語尾に「です。」「ます。」をつけて、ていねいな言葉づかいで発表させる。相手の意見を聞いて、「同じです。」「違います。」等が言えるようにする。 ・読書を奨励し、文型を繰り返し復習し、文づくりがスムーズにいくようにする。 ・音読する時間を多く取り入れ、声を出したり聞いたりする時間を大切にする。 ・漢字一文字ずつの意味をおさえながら、使い方の定着を図っていく。	○話型・聴型を取り入れ、語尾に「です。」「ます。」「なぜか」というと」「でも」等の簡単な接続詞をつかって話せるようにする。 ○作文や日記に取り組み、書く力の向上を図る。 ○毎日音読し、発表させる。 ○宿題プリントや小テストを取り入れ、漢字の定着を図る。	・大事なところを考えながら、最後まで話を聞けるようにする。 ・話型・聴型を取り入れ具体的に指導する。語尾に「です。」「ます。」「なぜか」というと」「でも」等の簡単な接続詞をつかって話せたり、相+K5:M8手の意見を聞いて、「○○さんと同じで〜。」「○○さんと違って〜。」等が言えたりできるようにする。 ・作文や日記に取り組み、書く力の向上を図る。 ・毎日の家庭学習で音読をしたり、授業の中で取り入れたりすることによって、言語力の向上を図る。 ・読書を奨励し、いろいろな文章や言葉に触れる機会を増やし、言語環境を整える。 ・漢字の定着を図る。	○話し方・聞き方について、国語科だけでなく全教科で取り入れたり例を提示したりしながら日常的に指導する。 ○東小スタンダードの形や「話し方かきくけこ」、「聞き方あいうえお」を意識させる。 ○毎週一回、作文の宿題に取り組ませ、心を動かされたものの、伝えたいことを分かりやすく文で表現する力をつける。 ○授業の中で音読をする時間をとるように心掛ける。 ○読書週間などを活用し、本に親しむ機会を設ける。読み聞かせを行う。 ○漢字の書き取りテストを毎週行い、定着を確認する。	・話し方や聞き方を意識させる。話し方では、丁寧な言葉で、分かりやすく話せるようにする。聞き方では、人の話を最後までしっかり聞き、それに対して自分の考えも伝えられるようにしていく。 ・作文や日記で書く力の向上を図る。 ・漢字の定着を図り、作文等で使えるようにしていく。 ・読書の時間を設け、様々な文章や言葉に触れさせる。	○日常的に丁寧な言葉遣いを意識させる。どの教科の授業でも発表するときなど、話型を示し伝えられるように指導していく。 ○毎週、作文や日記に取り組ませ、作文のルールを意識させながら、分+I5:N8りやすい文章を書けるように指導していく。 ○漢字は覚えるだけでなく、「とめ」「はね」「はらい」を意識させ、日常的に使いこなせるように指導していく。
社会					・日常生活と結び付けて社会的事象に関心をもち、進んで学習に取り組むことができるようにする。 ・調べたり見学したりしたことを新聞やワークシート、模造紙などにまとめる学習を意図的に行っている。 ・気づきことや考えたことを文章に書き表させ、まとめさせる。 ・写真や地図などの一つ一つの資料を詳しく読み取らせる。また、複数の資料を関連させるとどんなことが言えるのかを教師が示し、資料を読み取り、説明する力を付ける。	○学習指導要領を分析し、「何を」「どのように」指導するのか、明確にする。 ○地図記号や方位などを読み取れるように、一つ一つの資料を丁寧に読み取る時間を確保する。 ○教師から提示する資料を精選し、児童の多様な考えを引き出したり、考えを焦点化したりできるようにする。 ○フラッシュカードなどを継続的に使って基礎的な知識を定着させる。
算数	・具体的な操作活動を取り入れ、数の感覚を豊かにする。ブロックや数え棒などの半具体物を用いることで、数の概念の基礎を、五感を通して育てる。 ・具体物、言葉、数、図を使って、説明する活動を通して、友達との活動を楽しみ、自分の考えを確かなものにする。楽しく生き生きと学習に取り組めるように、数の提示や教材教具を工夫する。	○授業の最初に、3分間練習の時間をとり、基礎基本を身に付けさせる。 ○友達との考えの交流を経て、問題解決の多様さを共有し、自分の学びに生かせるようにする。また、学習したことがはっきり分かるようなノート作りをさせる。	・繰り上がり、繰り下りの加減計算、筆算が確実にできるようにする。 ・かけ算九九が確実にできるようにする。 ・自分の考えを具体物、言葉、数、式、図などを使って説明する力を育てる。 ・課題に対して、自分の考えをもてるようにするとともに、友達と話し合って解決することができる力を身に付ける。 ・楽しく学習に取り組み、学んだことを生活経験に結び付けて考えることができるようになる。	○授業の中で問題演習の時間を設け、習熟を図る。 ○めあて、まとめ等、学習の内容を見やすくまとめたノート指導を行う。 ○学年の後半では、ノートに考えを書き、それをもとに話し合うことを大切にし、友達の考えを読み取ったり、解決の方法を考えたりする。 ○数の提示や教材教具を工夫する。算数的な思考が身に付いたり、数や量の感覚が身に付いたりするようにする。	・少人数指導により、個に応じた指導の充実を図る。 ・計算などの基礎的な力や基礎的内容の理解力を付ける。 ・文章題の内容を正しく読み取る力を付ける。 ・既習事項を使いながら問題を解決する力を伸ばす。 ・自分からすすんで考えを図や式・文章で表し、伝え合おうとする力を伸ばす。	○習熟度別学習では、児童の実態把握し、各コースに適した指導の工夫を行う。 ○毎時間の始めに3分計算を行い、計算力を付ける。 ○ノート指導に力を入れ、繰り返し練習させ、学習の仕方の定着を図る。 ○文章題を解く際は、数値に丸、聞かれていることに波線を引かせ、問題文を読み取る力を身に付けさせる。 ○既習事項を確認できるよう、授業の始めに振り返りをしたり、教室掲示を活用したりする。 ○算数的用語や図を用いて、自分の考えをまとめたり、相手に分かりやすく説明したりする機会を授業に取り入れる。 ○児童にとって楽しく分かりやすい授業になるよう、課題設定を工夫する。
生活	・様々な体験から、気付いたことを絵や言葉で表現し、気付きを実感させていく。毎日の生活の中で気付いた季節の移り変わりや動植物の様子について伝え合う。 ・2年生との交流を多く取り入れ、他者との関わりを学ばせ、自分自身の成長につなげていく。	○体験活動の際には、観察カードを書かせる。事実に基づいた記述をさせ（色・形・大きさ・数など）自然への気付きに目を向かわせる。	・様々な体験から、気付いたことを絵や言葉で表現し、気付きを実感させていく。 ・毎日の生活の中で気付いた季節の移り変わりや動植物の様子について伝え合う。 ・1年生との交流を多く取り入れ、自分自身の成長や他者との関わりを学ばせる。	○体験活動の際には、観察カードを書かせる。事実に基づいた記述をさせ（色・形・大きさ・数など）、気付きを実感させる。ポートフォリオでまとめることで、振り返ることができるようにする。 ○インタビュー活動を取り入れたり、考えたことや気付いたことを発表したりする機会を設ける。		
理科					・事象から問題を見出して探究を進められるよう、自然事象との出会いを大切にして授業を行う。 ・比較して思考する力を育てるために「同じこと」「ちがうこと」に注目させて考えさせる。 ・基本的な実験技能が身につくよう、ていねいにおさえてから、実験観察を行う。	○自然事象との出会いを大切にする。 ○「同じこと」「ちがうこと」に注目して考察させる。
音楽	・音楽遊びやリズム遊びを積極的に取り入れて、自然に拍感が身に付くようにする。 ・鍵盤ハーモニカでは特に運指を大切にし、5本指が使えるようにくり返し指導する。 ・聴く時間をとってから表現するようにし、演奏する曲のイメージやどのように表現したいかのきっかけを作るようにする。	○身体表現や音楽遊びなどの活動を体験させながら拍の流れやリズムに対する感覚を育む。	・木琴、鉄琴、トライアングル、鈴、タンバリン、カスタネットなどの楽器にも親しむようにする。 ・発表の機会を作りお互いの良さを見つけるような活動をする。 ・鑑賞指導では曲の気分を書き表すことのできる鑑賞カードに書かせたり、それを発表したりする。	○身体表現や音楽遊びなどの活動を体験させながら拍の流れやリズムに対する感覚を育む。	・曲想と音楽の要素との関わりを意識しながら聴くようになってきている。歌唱では、限られた互いの声を聴きながら、発音に気を付けて歌うようになってきている。器楽においても互いの楽器の音色をよく聴いて、演奏することを目指し、学習を進めている。	・ただ音を出すだけではなく、自分の思いや意図をもって表現できるような学習を組み立てる必要がある。また、曲想と音楽の要素とのかかわりを考えながら、表現したり、聴いたりすることが必要である。
図工	・紙や粘土など身近にある素材に触れる活動を通して、のり・はさみ・クレヨンなどの道具の基本的な扱い方について基礎的な技能が身に付くように指導する。 ・短時間で簡単な操作で表現できる題材を設定し、体全体の感覚や技能を働かせながら、表すことを楽しめるようにする。 ・自他の作品の面白さや楽しさを感じるように、鑑賞の機会を設定する。	○道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味して出合わせる。 ○短時間の題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を定着し、思い通りに使えるように指導する。 ○短時間で簡単な操作で表現できる題材を設定し、体全体の感覚や技能を働かせながら、表すことを楽しめるようにする。 ・自他の作品の面白さや楽しさを感じとり、それについて語ったり書いたりするような鑑賞の機会を設定する。	・紙や粘土など身近にある素材に触れる活動を通して、のり・はさみ・クレヨンなどの道具の基本的な扱い方について基礎的な技能を定着し、思い通りに使えるように指導する。 ・短時間で簡単な操作で表現できる題材を設定し、体全体の感覚や技能を働かせながら、表すことを楽しめるようにする。 ・自他の作品の面白さや楽しさを感じとり、それについて語ったり書いたりするような鑑賞の機会を設定する。	○道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味して出合わせ、既習の技能については前題材を振り返りながら、技能が定着するように工夫する。 ○短時間の題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を定めていくように、段階的な配列を工夫する。 ○製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見る価値を知らせる。	・身近な素材に加え、木切れや厚紙・段ボールなどに触れる活動を通して、水彩絵の具やのこぎり金づちなどの基本的な扱い方が身につけられるように指導する。 ・前学年までの材料や用具についての経験を生かし、表し方を考えたり、意図に合わせて用具を揃えたりしながら、表すことの喜びを味わうようにする。 ・自他の作品のよさや面白さを感じとり、それについて語ったり書いたりするような鑑賞の機会を設定する。	○道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味して出合わせ、既習の技能については前題材を振り返りながら、技能が定着するように工夫する。 ○既習事項を考慮しながら題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を定めていくように、段階的な配列を工夫する。 ○製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見たり、意見を交流し合ったりすることの価値を知らせる。
体育	・運動遊びのやり方を知り、ルールを工夫して友達とかかわりながら体を動かす機会を増やしていく。 ・補助具などを積極的に活用し、児童が安心して、また安全に気をつけて、学習できるようにする。 ・ルールを守っていた児童や運動の仕方を工夫していた児童を取り上げ、称賛し合う場をつくる。	○準備運動として、多様な動きを取り入れた運動遊びを行う。 ○楽しみながら運動量を確保できるよう、授業の始めに、固定道具を使用した運動を行う。	・楽しみながら体をたくさん動かせるような遊びを取り入れていく。 ・2人組や3人組、グループなどの活動形態を工夫し、児童同士での学び合いの機会を設定する。 ・安全に気を付けて学習できるよ+K17:M17うにする。	○準備運動として、やわらか体操、体ほぐしの運動、多様な動き方を取り入れた運動遊びを継続して行う。 ○楽しみながら運動量を確保できるように、学習の流れを明確にし、素早く安全に準備ができるよう指導する。 ○安全に運動ができるよう、意識をもって学習できるように常に言葉かけをする。	・運動に対して興味・関心があり、楽しく活動しようとする児童が多い。 ・育てたい力は、以下のものと考えている。 ○友達との関わりを通して、基本的な運動技能を高め合える力。 ○友達と規則を工夫し、協力してゲームをする力。 ○健康によい生活の仕方や体の発育・発達について理解する力。	○（関心・意欲）学習カードを活用し、自分の課題に応じためあてを明確にしたせることで、運動への意欲を高める。 ○（思考・判断）自分の能力に適した課題をもって活動工夫したり、ゲームの規則を工夫したりして、協力し合って活動する力を高める。 ○（技能）友達との学び合いを通して、基本的な技能や動きを身に付けさせる。
総合					・興味関心から、自分の調べたい課題を見つけられるように記録の仕方を工夫する。また、課題についての考え方、まとめ方にも多様な方法があることを学習する。さらに、発表の経験を積み、自分の発表の力、表現する力を付けていく。	○個人での取り組みだけでなく、グループでの調べ・まとめ・発表の活動も取り入れる。

		4 年	5 年	6 年
		授業改善の方向	授業改善の方向	授業改善の方向
		具体的な方策 (重点項目)	具体的な方策 (重点項目)	具体的な方策 (重点項目)
国語		・話す・聞く力を高めるために、話題の中心を常に意識させながら話させたり、聞かせたりする。 ・文章の読み取りでは、段落相互の関係や接続詞に気を付けて、正確に読み取れるようにする。国語辞典を引く習慣を付けさせる。 ・漢字小テストを繰り返し行い、漢字の定着を図る。	・話す、聞くの学習では、立場や意図を明確にして話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができるよう、学級活動と関連させて指導する。 ・漢字練習や語彙を増やす指導を日常的に行う。漢字と言葉を結び付けた指導を工夫する。言葉の意味と使い方を合わせて指導する。 ・図書室の積極的な活用を通して、読書習慣の定着を図る。また、調べ学習で得た知識を活用できるようにする。 ・単元の始めから終わりまで、一貫した言語活動を設定し、言語活動の充実を図る。	○定期的な漢字テストの実施。 ○語彙力を付けるために国語辞典を活用する。 ○話す・聞く力を伸ばすための、対話を取り入れた授業展開を行う。 ○週に一度は必ず図書室を利用し、読書指導を行う。 ○単元を貫く言語活動を各単元で設定し、指導する。
	社会	・図書資料やインターネットを活用した調べる活動を行い、興味関心を高めていく。 ・調べたことをまとめる力、表現する力を高めるために、簡潔な文章の書き方や見出しの付け方を指導する。学習のまとめでは、分かったことや自分の考え・意見も書かせるようにする。	・学習したことを日常生活の中で活用できるようにするために、本やインターネット等を活用し、調べ学習を授業に多く取り入れていく。 ・問題解決的な学習ができるよう、日常生活の中にある問題点やずれから、学習課題を作らせる指導をしていく。	○資料集や地図帳、インターネット等を効果的に活用していく。 ○児童が課題を見付け、そこから学習問題をたてられるように時間を設定していく。
算数	・少人数指導により、個の習熟度に応じた指導の充実を図る。 ・計算などの基礎的な力や基礎的内容の理解力を付ける。 ・数量関係を中心に文章題を読み取る力を付ける。 ・既習事項を使いながら問題を解決する力を伸ばす。 ・自分からすすんで考えを図や式・文章で表し、伝え合おうとする力を伸ばす。	・習熟度に応じた少人数クラス編成を行い、個に応じた指導の充実を図る。 ・速さと正確さを兼ね備えた計算力を身に付けさせ、四則計算の基礎の習熟を図る。 ・既習事項を生かして、問題を解決する力を伸ばす。 ・自分の考えを図や言葉、式を使って説明し合う力を伸ばす。 ・自分からすすんで考えを表現し、深めようとする姿勢を高める。	○習熟度に応じた手立てを工夫する。 ○授業の始めに計算演習を継続して行い、計算力を付ける。 ○既習事項を提示し、確認できるようにする。 ○自力解決の場面で図、言葉、式を使って説明する経験を積ませる。特に数直線は積極的に使わせ、描き方を身に付けさせる。 ○自分と友達の見え方の共通点・相違点は何かを見極め、多様な考え方に触れさせる。 ○児童にとって楽しく分かりやすい授業になるよう課題設定を工夫する。 ○ICTを活用し、児童が意欲的に参加できる授業を行う。	
理科	・観察や実験の課題を明確にし、科学的視点から取り組めるようにする。 ・児童にとって身近な教材を工夫し、興味・関心を高める。 ・まとめなどでは、ワークシートやノートを活用し、知識の理解、定着を図る。 ・事物・現象の変化とその要因とを関連付けれる力を高める。 ・基本的な実験技能が身につくよう、ていねいにおさえてから、実験観察を行う。	○観察・実験用のワークシートを工夫して作成したり、ノートの書き方をしっかりと指導したりすることで、学習の順序や方法を学ばせ、更には条件統一の考え方を学ばせる。 ○自然現象との出会いを大切にす。 ○予想を立てる前に既習事項や既体験の思い出しをする。 ○実験器具の操作法や安全指導をていねいに行ってから実験に取り組ませる。	○問題解決の8つのステップによる授業展開を行う。 ○興味関心を高める教材の工夫 ○条件制御の考え方を定着させるために、実験内容や方法を精選する。 ○体験を伴う観察や実験を、少人数で行わせる。	
音楽	・聴き取り感じ取ったことを基に対話したり、協働しながら音楽表現を生み出したりする学習を充実させ、学びを深めるようにする。 ・課題提示や振り返りの場面で学習内容と生活の中の音や音楽との関わりに触れ、学習したことを生活に生かす意識をもてるようにする。	○一人一人が聴き取ったこと感じ取ったことを言葉にして共有する機会を多くつようにし、共通の言葉で思いや意図をもって音楽表現に取り組むことで協働学習を充実させる。 ○表現活動(歌唱・器楽・音楽づくり)では、実際に演奏して試すことを繰り返しながら、思いや意図を膨らませることができるようになる。 ○音楽を味わって聴き、曲や演奏のよさなどを見いだし、学習シートに記録したり、友達と交流して 伝え合ったりする。	○楽譜の旋律の動き、リズム、強弱、フレーズ、歌詞の内容、曲の構成等からどのような音楽かを読み取り、その音楽を表現するために必要な技能を身に付けていく学習をする。 ○楽譜から読み取ったことを基にどのように聴いたり、演奏したりするのかについての思いや意図を友達と交流しながら伝え合う活動をする。 ○ペアやグループでどのようにリズムや旋律をつくるのかを考えて発表して聴き合う。 ○今までに学習したことを生かして、主体的・協働的に聴いたり、演奏したり、音楽をつくったり、聴いたりする態度を育てる。	
図工	・身近な素材に加え、木切れや厚紙・段ボールなどに触れる活動を通して、水彩絵の具やのこぎり・金づち、彫刻刀などの基本的な扱い方が身に付けられるように指導する。 ・前学年までの材料や用具についての経験を生かし、表し方を考えたり、意図に合わせて用具を選んだりしながら、表すことの喜びを味わうようにする。 ・自他の作品のよさや面白さを感じとり、それについて語ったり書いたりするような鑑賞の機会を設定する。	○道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味して出合わせ、既習の技能については前題材を振り返りながら、技能が定着するように工夫する。 ○既習事項を考慮しながら題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていけるように、段階的な配列を工夫する。 ○製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見たり、意見を交流し合ったりすることの価値を知らせる。	○道具は扱いやすいように配置し、学習環境を整備する。 ○既習事項を考慮しながら題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていけるように、段階的な配列を工夫する。 ○製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見たり、意見を交流し合ったりすることの価値を知らせる。鑑賞活動を通して、主体的に作品の良さを感じ取ったり、自分の制作の参考にしたりする態度を育てる。	
家庭科		・体験を話し合ったり、実物を観察したりしながら準備や手順等を話し合って計画を立て、課題を把握させ、実習する。 ・工夫した事や感想を伝え合い、生活に生かせるようにする。	○学んだことを実生活に生かせるように、調理実習、縫物の後に宿題として家庭でも取り組ませる。	
体育	・グループ(チーム)のメンバーや互いのグループ(チーム)を尊重し、作戦や練習方法を考えさせて取り組ませる。一人一人のよいところを見付けさせたり、交流したりする場を設定する。 ・自分のめあてを設定させ、達成するための手立てを考えさせたり、取り組ませたりする。その中で、互いにアドバイスができるような場を設定する。 ・自分の体の動き方を感じながら運動ができるよう、体の動きに注目させる助言をしながら授業を行う。	○基礎体力を付けるために、準備運動の後に体づくり運動を行う。 ○単元ごとに小グループを作り、互いに言葉掛けやアドバイスをしやすい環境を作る。 ○体の動きに注目させる言葉かけを授業の中で意識的に行う。	○ICT機器を活用し課題を明確に捉えさせていく。 ○各単元において、小グループを作成し、互いにアドバイスできるように指導していく。	
総合	・グループ活動を通して、それぞれの課題解決に向けて、主体的・協働的な活動をさせる。 ・他教科との関連を意識し、横断的に思考・判断できる力を育てる。 ・調べたことをまとめたり、まとめたものを発表したりする機会を設け、それぞれの力の向上を図る。	○各学期に、グループ活動を取り入れた取り組みを行う。 ○社会科の学習の発展や地域の学習として、「地域安全マップを作ろう」を設定する。 ○1/2成人式を行って、自分の成長を確かめる機会とする。	○インターネット検索や本を活用し、自分で資料探しをする時間をとる。 ○思考ツールを活用して、情報を可視化・操作化することで、自分と友達を考えを比較しながら話し合えるように指導していく。	